

この悲しみに言葉はいらない!

清張・野村が現代社会に追う
父と子の愛の絆



鬼畜

きちく

製作 野村芳太郎
原作 野村芳樹
脚本 松本清張
監督 井手雅人
撮影 野村芳太郎
美術 森田郷平
音楽 芥川也寸志

岩下 志麻
緒形 拳
岩瀬 浩規
吉沢 美幸
石井 旬
大滝 秀治
加藤 敬三
蟹江 穂嘉
鈴木 瑞穂
田中 邦衛
大竹 しのぶ
小川 真由美

パナビジョン / 4chステレオ
松竹映画

鬼畜

きちく

◆主なスタッフ

製作……………野村芳太郎
 原作……………野村 芳樹
 脚本……………井手 雅人
 監督……………野村芳太郎
 撮影……………川又 昂
 美術……………森田 郷平
 音楽……………芥川也寸志

◆主なキャスト

お梅……………岩下 志麻
 竹下宗吉……………緒形 拳
 利一……………岩瀬 浩規
 良子……………吉沢 美幸
 庄二……………石井 旬
 銀行貸付係……………大滝 秀治
 小児科医師……………加藤 嘉
 阿久津……………蟹江 敬三
 刑事……………鈴木 瑞穂
 警官……………田中 邦衛
 婦警……………大竹しのぶ
 菊代……………小川真由美

■解説

話題作「八つ墓村」「事件」に続く野村芳太郎監督の問題作「鬼畜」は推理界の巨匠松本清張が、32年、知り合いの検事から聞いた事実をもとに書き下ろした傑作短篇で、「張り込み」33年、「ゼロの焦点」36年、「影の車」45年、「砂の器」49年など清張推理の映画化に成功をおさめた野村監督は、小説が発表された当時から映画化をもくろみ、シナリオ（井手雅人）も数回、推敲を重ねるなど、異常なまでに意欲をもちやしている。

小さな印刷屋の主人がよその女に生ませた三人の子供を引き取るハメになり、強気の女房の冷たい仕打で一人が死に、追いつめられた気弱な亭主は残る一人を捨て、一人を崖下に突き落とすが失敗。警察に保護された六才の長男は親をかばって完全黙秘を続ける。と、ドライなくせに決して強くない大人の世界。二つを対比させ乍ら切っても切れない親子のきずなが衝撃と感動の涙で描かれる。

出演者は、印刷屋夫婦に緒形拳、岩下志麻、印刷屋に囲われる女に小川真由美、ドラマのポイントになる子役も決定、豪華なキャストイングも揃った。

野村監督とそのベストスタッフは、映画音楽にオランダのシテイ・オルガンを使うため芥川也寸志が渡欧するなど、製作準備段階から大きな話題を呼んでいる、本年最大の超大作である。

■物語

竹下宗吉は、石版刷りの渡り職人として各地を転々とするうち、女工のお梅と一緒に、川越市の、小さな印刷屋の主になった。小金が貯まったところで鳥料理屋の女中菊代を囲い、七年間に三人の隠し子を作った。

おりあしく、火事と大印刷店攻勢が重なり、商売は凋落した。お手当も貰えなくなった菊代は窮した挙句、利一（一六）、良子（四）、庄二（一才半）を連れて宗吉の家に怒鳴り込んだ。子種のない上、これまで家計を支えてきたお梅はヒステリーをおこした。気性の強なお梅と開き直った菊代が陰気な口争いを始めた。間で、おろおろするばかりの宗吉に愛想をつかした菊代は子供三人を宗吉に押しつけたまま、家財もろとも蒸発するという思いきった行動にでた。もともと小心な善人でお梅に頭の上らない宗吉が仕事の合い間をぬって遠慮がちに子供の面倒をみるようになった。お梅は事あるごとに

子供と宗吉に当り散らし、大声で宗吉の不始末をなじり続けた。宗吉にとって地獄の日日が過ぎ、末の庄二が栄養失調で衰弱した。そしてある日、寝ている庄二の顔の上に紙の山をおおっていた古シートが故意か偶然か、かぶさって死んだ。シートの上から位置から見るとお梅の言葉と口に出せなかった。「あんたも一つ気が楽になったね」お梅の言葉にゾーンとする宗吉だが、心中、ひそかな安らぎも覚えるのだった。その夜、二人は久しぶりに燃え、共通の罪悪感に余計、昂ぶった。



「あのね、よし子、父ちゃん、好きですよ」

長女・良子は珍らしく、東京へ遊びに連れて来られて、はしゃいだ。地下鉄↓デパート↓玩具売場、そして東京タワー。その展望台で望遠鏡に夢中の良子を置き去りにして宗吉は、逃げるように家へ帰ったものの、さすがに気になる。後めたい。長男・利一に「よそで預かって貰った」といい訳したが、しつこく、つきまとう利一を宗吉は叩きつけた。

お梅は利一を一番きらっている。きょうだい思いで、利口な、利一の白目がちな目が、お梅夫婦のたくらみを見抜いているようだ。利一を上野動物園に連れだし、銅版屋の持ってきた青酸カリ入りのジャムパンを宗吉が与えたが、利一は一口喰べて吐き出した。「父ちゃん、帰ろうよ」

動転してばりやりしている宗吉は利一に声をかけられて、はじめて涙を流した。何日か後、宗吉は、こだま号によるこぶ利一をのせ、北陸海岸に連れていった。眼下に海が広がる数十丈の断崖上の草原で蝶採りに遊び疲れ眠りこけた利一を宗吉は下へ放り出した。そしていつもの方へ一目散に駆けた。

翌朝、海岸沖の船が絶壁の途中に引掛っている利一を発見、かすり傷程度で助けた。警察の調べに利一は父親と遊びにきて、眠っているうちに、ひとりで落ちてたと云い張った。その他は名前や住所、親のことも身許の手がかりになることは一切いかなかった。利一の服のメーカーのマークが全部切りとられていたので、不審が重なり転落が単なる事故でなく、利一の完全黙秘は、突き落とされた誰かをかばっている警察は、判断した。

脅かされても口を利かない利一に警察が完全にお手あげになった時、偶然、入ってきた名刺屋が、利一の持っていた小石に注目した。利一が唯一「いしけりの石」と素直に話したそれは、今は珍らしい石版用の石で、インキをこすれば、消えた版が再現できるかも知れないという。

警察の捜査がめまぐるしく開始された。

移送されてきた宗吉が警察で親子の対面をした。「坊やお父さんだね？」警察官の問いかけを、利一が激しく拒否した。「よその人だよ、知らないよ、父ちゃんじゃないよ」手錠の手を合掌するように上げて、涙をほとばしらせて絶叫する宗吉の声が部屋いっぱい響いた。「利一………かんべんしてくれ！」

*10月7日(土)→27日(金)特別ロードショー

■特別鑑賞券＝前売中 ¥1000 (当日一般1300円・大学1200円・高中生1100円のところ)

●上映時間 日・祝 10:00 平日 12:20 2:40 5:00 7:20

■土曜オールナイト：丸の内ピカデリーは 10%、14%の2回：新宿ピカデリーは毎土曜

丸の内ピカデリー 新宿ピカデリー
 有楽町・朝日新聞社うら TEL (201) 2881 紀伊國屋ビルうら TEL (352) 1771